

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170300497		
法人名	有限会社 喜楽		
事業所名	グループホーム喜楽Ⅱ		
所在地	佐賀県鳥栖市弥生が丘2丁目6番地		
自己評価作成日	平成29年8月9日	評価結果市町村受理日	平成29年11月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成29年9月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム喜楽Ⅱでは、職員も利用者も仲良く笑顔で過ごせるように、利用者の特徴や個性を早く掴み、ストレスのない楽しい生活を頂きたく、職員同士が仲良くしている様子を利用者に見て頂き、信用、信頼を早くしてもらう事で、皆が楽しく過ごせるようにしています。その為、職員間に上下関係も作らず、皆が平等皆助け合って為、職員が困った時などは、気軽に誰にでも相談できるような環境作りを意識しています。利用者も職員も「出来ない」と決めつけずに、まず「やってみよう」という気持ちを大切に、毎日過ごしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは幹線道路沿い建てられ、近隣に大きなショッピングモールがある。都市計画に基づいた新興市街地の一角で、買い物の便の良い。周囲は眺望もよく、築11年目となるが室内は清掃も行き届いている。管理者職員は入居者それぞれの生活歴に基づき、その人らしさを尊重しており、入居者の表情も明るく、和やかな雰囲気を感じられる。日々の食事は入居者の好みを取り入れ、旬の野菜など使い、職員がすべて手作している。また、訪問看護テーションが同敷地にあり、医療機関と連携し、健康管理に努め、看取り支援も行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を施設内に貼り、職員は理念を意識してケアを行っている。	理念は玄関など、人目に付くところに掲げている。管理者より、入社時や月々のミーティング時内容説明を行い、職員間で共有し、入居者個々に寄り添ったケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や、地域の方と連絡を密に取り、地域の行事やイベントに参加できるように、お互いが情報提供をしている。	地域の区長や民生委員、地域住民の交流を図り、自治会にも参加し、ボランティアの定期訪問もある。地域の夏祭りへの参加や、子供神輿の立ち寄りも見られ、地域の清掃活動に従事し、住民との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	看護学生の実習を取り入れており、高齢者の支援の大切さや難しさを直接伝達している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	その時の利用者の人数や何をしておこなっているか、何ができるかなどを報告し、地域の取り組みに参加できるように話し合いを行っている。	記録はきちんと整備され、年6回定期的に開催している。地元区長、民生委員、家族代表が参加し、意見の交換、情報共有などを行い、会議の内容は入居者、家族、職員などに伝達している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議での市職員の参加や、何か気になる事は、行政へ連絡し、確認を行う事を徹底している。	4月に担当職員の交代があったが、行政からの運営推進会議への参加や、情報共有も出来ている。日頃より窓口へ出向いて相談などを行い、研修会などにも参加、市町村との連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修や施設カンファレンスで拘束をしない工夫やアイデアを考え伝達し、拘束をしない取り組みを実施している。	職員は交代で研修会などに参加、会議時など内容伝達を行い、全員で協議し理解を深め、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。特に言葉遣いなどに注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や施設カンファレンスで学んだ虐待の種類や虐待時の通報体制を施設内に掲示している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や労務士などから得た情報を、カンファレンスを通じて職員へ伝達している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や法改正での説明書類は、ご家族様へ直接説明し、理解を得た上での署名捺印を頂き、気になる事や希望を最初に確認するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者はもちろん、家族が面会時にも必ず声を掛け、何か気になる事がないかなど、気軽に言ってもらえるように、声を掛けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が介護業務をする事で、職員と一体になり、小さな気づきや改善が必要な事をいち早く発見し、できる限り働きやすい環境を整えている。	管理者は、日々の介護の関わりの中で、職員とコミュニケーションを取るようにしている。月々の会議の時などにも、職員の意見の聞き取りに努め、特に勤務体制や物品購入など検討し、運営改善に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	頑張っている、努力している職員には、報酬の見直しや正社員としての採用、家庭の事情の配慮が必要な方は、勤務時間や休みの調整を職員と話し合いながら、行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受ける機会の確保、日常のケアでの疑問や得意不得意を把握した上で、不得意を克服し、得意をもっと伸ばせるように、日常業務に変化を加えるようにアドバイスしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、前年度GH協議会の役員を行った事で、横の繋がりも増え、同業者から学ぶ事を、職員に伝達し、質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員が本人のそばで傾聴を行い、信頼関係の築きや、不安要素の聞き出しなど、信用をして頂けるように対応を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に、施設に対する疑問や、本人に対する疑問、ケアに対する疑問や要望を聞けるように、声掛けを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員が把握した情報をケアマネジャーに伝達し、ケアマネジャーより家族にサービスの説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日中は職員と出来る範囲の事をして頂き、利用者でなく、職員の1人と思ってやりがいのある毎日を送って頂けるように対応をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人要望で家族にしか出来ない案件は、できる限り家族に伝え、できる範囲で対応をして頂けるようお願いをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や自宅近隣住民の面会は、率先して受け入れ、本人が喜べるように支援をしている。	自室に思い出の写真を飾ったり、馴染みの美容院や買い物など、家族に協力し出かけている。また友人や知人の訪問時、再び訪問し易いよう職員からの声かけやお茶出しなど配慮をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1つの事を皆で完成させる事で、達成感を持って頂くレクリエーションを行うが、言い合い等にならないように、職員数名が必ず間に入り、指揮を取る事で揉める事も少なく仲良く参加して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	「相談や協力などは、いつでもさせていただきます」という旨をお伝えし、何かあれば気軽に連絡をして頂けるような関係を築く事を大事にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人及び家族の生活歴を大切に、不安や要望はいつでも職員に伝えて頂けるような関係性を築く努力を行う。	家族や本人との日頃の会話の中から、入居者の意向や思いを聞き取るように努めている。また入居者の生活歴を尊重し、その方にあった個々の対応を行うよう心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員を信頼して頂くことで、事前調査でわからなかった事や思いを日中のケアに取り入れて、本人が満足するサービスを実施できるように対応をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	管理者と職員が一体となり、本人の状態をいち早く察知し、本人に合う生活スタイルを見つけるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者と職員が家族や本人に要望や不安要素を確認し、管理者からケアマネジャーへ伝達して、本人に合う介護計画の作成を重要視している。	カンファレンス時、職員間で意見を出し合い、本人・家族にも、面談を行っている。介護計画は3ヶ月に1度及び随時見直し、家族に説明、職員も共有している。計画の目標評価を、日々の日報で記録し、次のプランに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は職員全員が出勤時確認し、記入者は出来た事、出来なかった事など、日常での変化は必ず記入するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアを一本化せず、その時その場に合ったケアを取り入れる。それにより、新しい発見や問題点が出てくる事もあるが、それがよりよい本人へのケアに繋がるようにと思い、実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事などにはできるだけ参加を出来るように管理者が支援し、本人が楽しめるように職員が支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を確認し、希望があれば、施設より担当医に継続支援の要請を行う。「この病院でないといけない」という縛りは一切ない。	かかりつけ医の選択は自由で、地元医院の往診もあり、事業所内に訪問看護ステーションも併設し医療支援に結びつけている。他の医療機関受診時は、入居者の情報を提供し、連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションを隣接しており、必要に応じて、24時間体制で医療を行えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ソーシャルワーカーとの定期的な情報交換や連絡、入院した際のお見舞いや、現状確認を看護師や担当医師と取り、出来る限り慣れた施設での生活に戻ってきて頂くように、施設も対応をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時及び必要時に、看取りの確認及び説明を看護師が行い、了承を頂いたら、家族と本人が満足いくケアを考え実践している。	契約時、書面に記載し説明している。看取りの支援も行っており、本人・家族の希望を中心に対応を協議し、必要時主治医からの説明を行って貰うなど、柔軟に対応できている。また、職員の研修や不安を与えない体制などにも考慮している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時は連絡網で施設長及び管理者に連絡し、指示のあった初期対応ができるように、不定期で看護師による指導やカンファレンスを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災・震災計画書を作成しており、災害については、カンファレンスで話題にする事もある。近隣住民や地域住民には、日々の挨拶やコミュニケーションにて協力依頼をしている。	防災マニュアルの作成があり、消防署の指導のもと年2回、職員参加で夜間対応の避難訓練を行っている。近隣住民へ協力の声掛けや、災害時の避難場所の確認、非常食の確保もしている。しかし、非常口付近が避難しづらい環境となっている。	避難訓練などの実施はあるが、避難通路に置かれた物の撤去など、スムーズに非常口からの避難ができる取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者に対し、人生の大先輩である事を自覚してもらい、失礼の無い声掛けや行動を意識してもらうように、自分がされて嫌な事はしないという、大切で当たり前の事を伝達をしている。	個々の人格を大切にし、日頃より言葉遣いに注意し、排泄時等そっと声をかけるなど、羞恥心やプライドを傷つけないよう配慮している。個人情報、他者の目に触れない事務所で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何か行う際には、本人への声掛けや確認を必ず行う。睡眠や食事なども決まった時間でなく、本人に合わせて行う事も日常の中で多く取り入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調不良や気分が乗らないなど、本人の調子に施設が合わせ、業務やレクリエーションを調整している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員はユニフォームが無いので、利用者の見本となるように、清潔感のある個性を出す事で、利用者の個性を発揮した服選びやおしゃれをする気持ちを忘れずに持って頂くようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に食事の好みを聞き、出来るだけ取り入れながら、一緒に献立を立てる事や、片付けの協力などを促し、実践している。	献立は入居者も一緒になって考え、買い物にも同行している。食事は手作りで、旬の食材を取り入れ職員も一緒に食べている。下ごしらえや食器ふきなど、入居者にも手伝って貰い、時には外食も取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べた量や食べた食材、水分量の確認を行い、水分はこまめに提供し、食事量が少ない方には食べやすいおやつ等を別で提供しているが、出来るだけ皆に合わせて食べて頂くようにはしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で出来る方は声掛けし口腔ケアを促し、介助が必要な方は職員が管理洗浄をし、清潔を維持出来るようなケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ訴え時の誘導や定期的な声掛け誘導を行い、トイレに行く事を習慣化し、出来る限り、失禁等を減らせるように支援している。	個々の入居者の排泄のリズムをつかみ、その人に応じて声掛けや介助を行い、トイレでの排泄や紙オムツやパッド類の使用軽減を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態を確認し、場合により乳製品の提供や下剤等を使う事で便秘の解消を促している。ひどい時は担当医に相談し、定期薬の見直しをお願いしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時に利用者に声を掛け、希望者は、率先して入浴を実施する。体調や本人希望を配慮した入浴を心掛けている。	入居者の特性に合わせて声掛けを行い、拒否なく楽しく入浴できるよう柔軟に対応している。介護度の高い方を含めて、全員が浴槽に入れるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	何をするにも、定期的な休憩を取って頂き、場合によっては、日中でも横になる時間を作っている。昼夜逆転をしない様に注意をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導により、薬状及び薬の確認を職員と一緒にし、疑問などは、気づいた時に必ず確認を取るようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者とのコミュニケーションの中で、やりたい事や行きたい所を聞き出し、出来そうな事は、まずやってみようとしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	業務で買い物がある際は、利用者に声を掛けて、一緒に外出している。職員で対応できる範囲であれば、出来る限り対応をするが、家族でないと出来ない事は、連絡を取り、機会を作って頂くように支援をしている。	近隣にスーパーなどがあり、日頃より食材の買い物など職員と一緒に出掛けている。天気の良い日など外気浴を行い、個人的に外出希望がある時は、家族などの協力を得て外出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	盗難などの被害が起きないように、出来る限り個人の所持は避けているが、家族や本人の納得と理解があれば、所持は可能。必要な物品等があれば、職員と買い物に出掛けたり、家族に連絡し、購入を促している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の利用は可能だが、家族の許可や了承は取っている。携帯電話や手紙は自由に使って頂き、必要に応じて、職員が支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆で作った季節感のある貼り絵を掲示し、季節を感じて頂いている。利用者が気になりそうな物や室温などは細目に確認をし、対応をしている。	周囲の眺めも良く、室内は明るく生活臭もなく、掃除も行き届いている。廊下は広く、各部屋に名札を設置し、温度湿度など気を配っている。壁には写真や絵を飾り、音楽など聞こえ、入居者の表情も穏やかで笑顔が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内では、どこに誰が座りくつろぐなどを利用者間で決めている事もある。本人たちが納得の上で決めている場合が多く、揉める事などは無い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は自由で、何を持ち込まれてもよい。足りない物や必要な物は施設側で用意し、本人が落ち着く部屋作りをしている。	入居時、壁紙を新しく張り替え、身体状態に合わせたベッドや家具を使用している。家族の写真や、自宅で使い慣れたものを持ち込み、室内全体シンプルに整えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食事の際のテーブル配置などは、ADLにあまり差が無いような方を隣接するようにしている。日常生活の中で、転倒などの危険性がある方の隣には職員が必ず付くような配慮を行っている。		